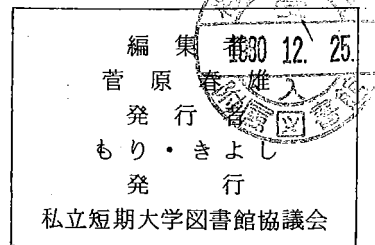


Bulletin of Junior College Library Association



1980.12 No. 7

## 短大図書館－80年代の課題－

今年図書館界では記念すべき行事が二つあった。ひとつは、図書館法ができて、今年で30周年になった。その記念として図書館法30周年記念式典が、また短期大学制度ができて、今年で満30周年になったとして短期大学制度30周年記念式典が5月・6月あいついで行われた。

私立短大図書館協議会が発足以来、会報2回の発行と昨年は総覧の刊行、続いて今年は短大図書館関係者の研究や実践報告として研究誌なる「短期大学図書館研究」創刊号が3月刊行された。協議会が発足して、はや3年にして研究誌が発行されたことは、ひとえに短大関係者の熱意と努力によるもので、図書館雑誌で書評がでるように、まさに画期的なものとして広く図書館界から評価され、今後の内容充実と着実な続刊を期待している。

JL A 短大総会昭和55年度総会が、6月3日JL Aで行われた。部長あいさつのおと、議長選出し、昨年度の事業報告、会計、監査報告、55年度事業計画として、全国図書館大会、その他について審議された。

6月4日JL A総会があり、午後科学技術館ホールで図書館法30周年記念式典ならびに講演が行われた。同日私学側では、私立短大協55年度総会が伊藤伊会館で開催(会報6号)、7・8月には毎年行われている「図書館等職員著作権実務講習会」が、東京・京都の会場で行われた。東短協の図書館研究協議会が、9月3日4日私学会館で研修会が開かれ、講演として東京大学図書館情報学研究センター助教授の井上如氏が「短大図書館のあり方」と題して講演された。シンポジウムでは「短大図書館を生かすには」全体討議では「短大図書館業務に関する諸問題」として事例報告などがあり、4日には図書館見学として東京女子大学短大、中央大学の図書館を見学した。同研究協議会がかねてから編集発行していた紀要類題目索引が76年版で中止された。其の後内外からその続刊の要望が再々だされ、私学研修福祉会とともに、その必要性を痛感し、続刊を積極的に検討をすすめているという。

日短協の研修会が、9月29日から10月2日まで4日間成田で開催された。初日は基調講演として図書館情報大学の小野泰博氏の「英米における図書館の現状と歴史」と題してスライドをまじえながら視察談を話された。

事例発表では短大図書館における諸規程およびスタッフマニュアルの実際と望ましいありかたなど発表、分科会は例年の総務・整理・奉仕の三分科会にわかれ、かつばつな討議が行われ、最終日は成田市内見学で散会。

今年になって私立短大協組織の認識をあらたにし、加盟館も次第に増大してきている。今年11月現在207館になった。活動も地区を中心に盛んになり、9月には関東・甲信越地区事業として国学院大学栃木短大が、地区短大へ依頼し、雑誌・紀要類の調査を行い、小冊子として「関東・甲信越地区私立短大図書館雑誌紀要総目録」を発行した。地区所蔵目録として相互協力のToolとして大いに利用されることを期待する。続いて近畿地区でも関東地区とほぼ同じころその企画をスタートさせ、10月に「近畿地区私立短期大学雑誌目録」が発刊された。これから他地区でも計画があるようで、全国的な輪を広め、短大図書館間の相互協力の確立、ネットワークに協力と努力を重ねて行かなければならない。4年制大学においてはすでに国公私立大学図書館協力委員会ができ、活動している。短大図書館もこのような組織への参画や独自の組織も考えて行かなければならない。そのためには基盤作りをまずすることが大切ではないか。

書誌作成とともに、地区内で研修会、実情交換も大事な活動のひとつで、北海道、東海、北陸、近畿、九州でも盛んに行われている。(地区活動報告)

在京においては、79総覧刊行のあと、小委員会を設け、総覧の実態にもとづく各種の集計・分析を行い、ようやく10月末完成した。今後総覧とあわせて各館で参考されるよう期待している。また紀要第2号刊行を予定して、すでに各地区理事を通じて執筆依頼を出している。

3月末には創刊号におとらぬ内容で刊行される。

10月末、鹿児島市で第2回全国理事会を開き、各地区の活動や情報交換を行った。

全国図書館大会、今年は南のはずれ、鹿児島市で開催、晴天にめぐまれた3日間で全国各地から1,000名を越える参加者でにぎわった。

初日県文化センターで開会式、年ごとに郷土色な演出効果(宮之城大鼓)で、開会式らしい雰囲気をもりあげた。開会宣言、あいさつ、祝辞、表彰式、JLA理事長の基調報告続いて今日出海氏(国立劇場会長)の講演などあり、定刻の4時30分で終了、2日目、市内城山共済会館で第7分科会テーマ「80年代の短大図書館を考える」のもとに、事例発表4つで私学側から3つの発表が行われ、田中輝夫氏(鹿児島短大)からスライド利用によるオリエンテーションと題して、旧館から新館への移転経過と新館における利用促進方について、調査や効果について発表された。定良誓信氏(佐賀竜谷短大)は、短大図書館の諸問題として、とくに施設設備、人員不足、予算について、これは先に総覧刊行で、貴館で現在困っていることはの分析、さらに九州地区では、自館での問題点など提起した。下條瑞恵氏(福岡女子短大)は、蔵書構成と職員の専門職制について発表、利用教育を前提とした諸問題を論究し、今後対処して行く職員のあり方について提言している。

なお公立短大の発表では長崎県立短大の山本芳江氏が、図書館員の問題を公立短大へアンケートを依頼し、その分析と自館と対比、また一般論として図書館員の問題を多角的に論究した。

午後は同会場で国立国会図書館の今英章氏が「出版情報、書誌情報における機械化の現状」と題して講演された。内容は今後の図書館界の展望として、今日機械化の促進で、どう対処して行くか、国立国会図書館の場合の

問題と今後検討すべき諸問題など大きく4つ柱にわけ、1)新NDL印刷カード作成頒布システム、2)ジャパン、マーク、3)ISBN(図書コード利用の手引)について、4)オンライン目録、について話された。

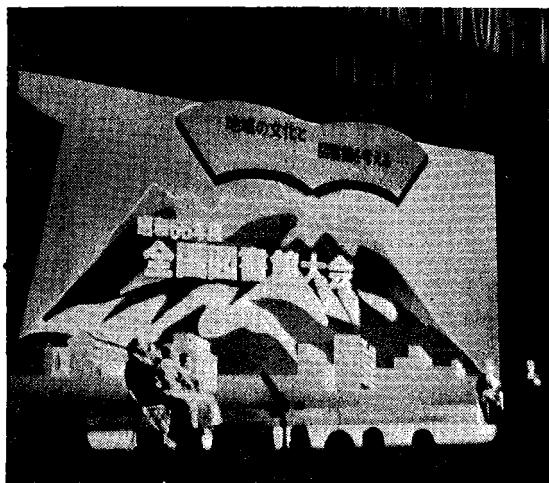
その後自由討議に切换え、私立の相互協力のToolとして、最近あいついで目録類が刊行され、これを機に、相互協力の促進方について、地区実施例の紹介と種々話し合いから4年制の動き(国公私図書館協力委員会)とあわせて協力方、短大も参加など協力体制を確立したいという意図で、これを大会決議としたい、として幕をとじ全大会へ決議をもちこんだことは短大分科会発足して、はじめてのことであり、まさに画期的成果をあげた。

このあと、公立は総会を、私立は地元の鹿児島短大図書館を見学した。(短大図書館めぐり参照)

図書館大会が終わった11月には、東京、京都で毎年の文部省主催大学図書館職員講習会が行われた。公立短大関係者の強い要望で、今年も昨年に引継いで公立・私立図書館職員が受講した。しかし案内を見ると、まだ制限があり、これから自由参加へと拡充されることを望む。

今日現職者研修とか再教育が問われているとき、短大では、日短協、東短協とこの講習会が唯一の研修であるゆえ、再考されなければならない。

以上総括的にともし1年ふりかえて見ると、とくに目立つことは、私立短大協の積極的な活動である。とくに、相互協力、ネットワークをめざして地区・地域の相互協力のめばえがでてきたようである。相互協力は短大のみでなく、今や大学図書館や館種をこえて実施されなければならない。これは急務な課題であり、各館がそれに向けて対応できる体制にもっていかなければならないと思う。80年代の課題は相互協力の問題とともに利用教育の促進も図らなければならない。(菅原春雄)



#### 資料交換コーナー

- 福祉紀要 障害者と地域社会 1978.10月  
本のひろば 1979.7月、8月、1979.10月  
キリスト教学校教育 1976.6月、8月  
子どもの館 1979.8月  
政府刊行物月報 1979.8月  
精神薄弱児研究 1980.10月No.266.  
書斎の窓 1980.2月(Na.291)、7月(Na.295)  
出版ダイジェスト 1979.12月、1980.1月、3月、5月、7月  
短期大学教育 1974.11月、1976.11月  
図書 1979.1月、11月、1980.1月  
図書新聞 1979.10月

## 短大図書館めぐり - 第6回 -

## 鹿児島短期大学附属図書館

本学は昭和42年4月に開学、教養学科、音楽科、児童教育学科の三学年と専攻科（教養専攻、音楽専攻）で構成される短期大学で在學生（女子のみ）は、1450余名、現在までに送り出した卒業生総数は、5,000名をかぞえ、各地で活躍している。

また、開学と同時に地域文化の向上発展に寄与する調査研究の機関として南日本文化研究所を、更に昭和45年度には教育実習の場として鹿児島幼稚園を開設し、教育研究の充実に積極的に取組んでいる。

従来の図書館は狭小のため、早くから新築計画に鋭意検討を加えてきたが、10周年記念行事の一つとして54年2月着工、11月に完成、55年1月16日開館のはこびとなった。

構造は鉄筋3階建、各階平均640平方メートル、総面積1919平方メートルで全館冷暖房である。

## 新館建築の基本的な考え方として

1. 研究図書館と学習図書館との二つの機能を両立させる。
2. はいりやすく、親しみやすい図書館とする。
3. 視聴覚関係施設を充実する。
4. 機能の集中化と効果的運用をはかる。
5. 書庫については将来10年間の耐用をはかり、併せてそれ以降増築のための配慮をした など。

## 館内配置の概要について

- 1階 開架閲覧室、研究コーナー、児童書室、展示コーナー、目録コーナー、事務室などで、職員用コピー機、学生用コピー機、スライド作成機、

マイクロリーダーなどの機器が備えてある。

2階・開架閲覧室、グループ閲覧室、音楽資料室、オーディオルーム、共同研究室などで、電子ピアノ、プレーヤー、カセットデッキ、オープンデッキ、FM専用チューナーなどの機器が備えてある。

3階・視聴覚室、共同研究室、南日本文化研究所などがあり、カラー教材提示カメラ、ビデオ、O.H.P.教育用ステレオ、8ミリ・16ミリ映画機などの機器が備えてある。

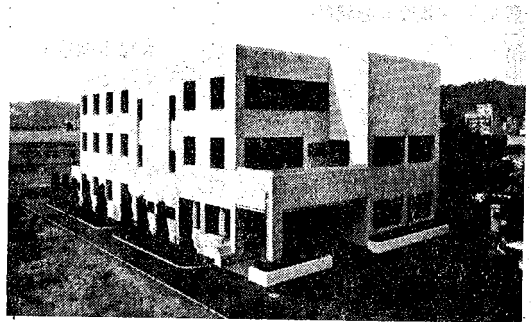
閲覧総席：130余席

書庫：5層で図書搬送用リフト設置

蔵書冊数：63,000冊（内洋書12,000冊）、楽譜7,000冊、レコード4,500枚（内開架図書27,000冊、レコード1,500枚）雑誌250タイトル

蔵書収容可能冊数：開架30,000冊書庫10万冊

館員：館長ほか8名で管理運営がなされている。



Book Review 1979 May. 20, June 10. 17. 24,  
July. 1. 8. 15. 29, Aug 5. 19. 26  
Sept. 2. 9. 16. 23. 30, Oct. 7. 14.  
21. 28, Nov. 4. 11. 18. 25.

Bulletin 1979 Apr. (No 35, No 36)

Childhood Education 1979 Jan. (3部), Feb. Mar.  
(3部), Apr. May. Oct.  
(2部), Nov. Dec (2部).

Child Welfare 1978 Jan. (No 1), 1979 Jan. (No 6).

College, Research Libraries News 1978 Dec. (No 10),  
1979 Jan. (No 1), Mar. (No 2)

Developmental Psychology 1979 July, Sept., Nov.

Infant Behavior & Development 1979 July, Oct.

Journal of Experimental Child Psychology

1979 June.

The Musical Quarterly 1979 Jan.

Poetry Review 1979 Vol. 69 (No 1, No 2), 1980 Vol. 69.

Psychological Abstracts 1980 Mar.

Saturday Review 1979 June, Sept. 1, 15, 29, Nov.,  
Oct. 13, 27, Dec.,

1980 Jan. 5, 19, Feb. 2, 16, Mar. 15

Mar. 15 (2部), 29, Apr. 12 (2部)

T. L. S. 1980 Jan. 4, 11, 25 (2部ずつ), Feb. 1, 8, 15,  
22. 29 (2部ずつ), Mar. 14, 21, 28 (3部ずつ),  
Apr. 4, 11, 18, 25 (2部ずつ), May 2, 9, 16  
(2部ずつ), May 23, Dec. 7, 14, 21 (2部ずつ).

ご希望の館がありましたら下記へお問合せ下さい。

〒106 東京都港区六本木5-14-37

東洋英和女学院短期大学図書館

Tel. 585-3087

\*送料は着後で結構です。

## ＜ 事務局 報告 ＞

### 昭和55年度第2回全国理事会

日時 10月30日 午後6:00～

場所 鹿児島市 敬点閣

出席 会長、全国理事、在京役員他関係者

在京役員会の近況、地区活動の近況など情報交換

### 昭和55年度第3回在京役員会記録

昭和55年7月25日(金) 於 日本図書館協会

#### I. 報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 「短期大学図書館研究 No.1」の配布・販売状況
- 3) 地区協議会の活動
- 4) そ の 他

#### II. 協議事項

- 1) 在京役員会および関東地区協議会の人事について
- 2) 「短期大学図書館研究 No.2」の編集・刊行体制について
- 3) 会費の値上について
- 4) そ の 他

### 第4回在京役員会記録

昭和55年10月6日(月) 於 日本図書館協会

#### I. 報告事項

- 1) 会 勢

2) 「短期大学図書館研究 No.2」の販売状況

3) そ の 他

#### II. 協議事項

- 1) 全国理事会懇親会の開催について
- 2) 「短期大学図書館研究 No.1」の編集・刊行スケジュールについて
- 3) 「私立短期大学図書館総覧—集計・分析編」の刊行および頒布状況について
- 4) 在京役員会の理事の人事について
- 5) そ の 他

#### ＜加盟館動向＞

52年9月発足時102館から55年11月26日現在207館(大学2含む)になった。

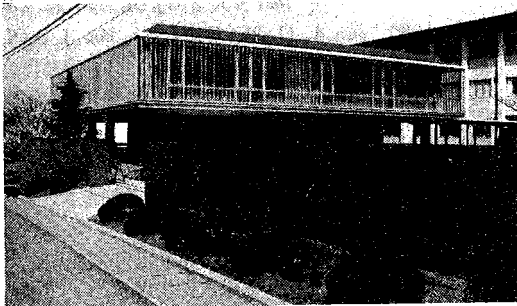
内 訳	北海道	15	近 畿	47
	東 北	11	中・四 国	18
	関東(東京)	67(33)	九 州	27
	東海・北陸	22	合 計	207

## 短大図書館めぐり — 第7回 —

### 上田女子短期大学附属図書館

本学は昭和42年、上田市に設立された幼児教育の短大である。開学以来、本校舎にあった図書館閲覧室が、蔵書の増加、学生定員の変更等により手狭になり、本年1月本校舎前庭に鉄骨造り2階建ての独立の図書館が完成した。

新図書館は総面積736.04㎡、鉄骨2階建て、外観は2階の四方全面が総ガラス張り。外側を30cmのアルミ格子で囲ったモダンな建物である。



館内配置は、1階が書庫、ブラウジング・ルーム、視聴覚室で、書庫には将来電動式移動書架の導入に備えてレールがすでに敷設されている。将来の収容可能冊数は約5万冊である。2階は前述の全面開架閲覧室で、北側に事務室が配置されている。又、幼児教育学科として児童図書に関心が高いことから、閲覧室西方に児童書コーナーを設けてある。

蔵書数もまだ1万8千余、職員2名(内1名兼務)で毎日、追われるような忙がしさの中で、図書館の建築が進み、より少ないスタッフでいかに機能的に図書館運営がはかれるかということで、一ヶ所集中管理の開架閲覧システムの図書館となった。

新図書館はこのように地域の人々からもモダンな建物として評価されているが、将来を考えると少々小さいという感はある。がしかし、当面はこの小図書館の質向上(図書資料の収集、レファレンス・サービス、図書館実務の能率化等)に大きな課題が課せられている。

(司書 長張和子)

## 〈地区協議会活動報告〉

### 〈北海道地区〉

北海道地区協議会、今年度の研修会を開催

私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会では第2回(昭和55年度)研修会をさる8月26日(火)、北海道藤女子短期大学において開催した。

今年度は全体テーマとしてレファレンス・ワークをとりあげ、午前は加盟館より館長および職員25名が参加して「短期大学図書館における奉仕活動について」、各館から提出されたつぎの2つの問題を中心として(司会・釧路短期大学図書館長 米坂英範氏)、約2時間にわたって熱心な研究と討議がおこなわれた。

1. 短大図書館のレファレンス・ワークの範囲について— 図書館はどの程度かわかるのか—
2. レファレンス・サービスを展開するための基本的条件としての資料の選択・収集について— 各館の資料収集の特長について—

この意見の交換を通じて各館の実情を理解するうえに役立ったと同時に、今後の相互協力をすすめて行くうえにも役立ったと信じている。

ついで午後からは北海道図書館連合会議の後援のもとに、東京学芸大学教授の北嶋武彦先生を迎えて、「公共および大学・短大図書館におけるレファレンス・サービスの進め方」と題する講演がおこなわれた。これには昨年度開催したNDCセミナーと同様に、道内各地の図書館から114名が出席し、約2時間半にわたる講演に熱心に聴き入っていた。このあと大館光男氏(藤女子大学図書館司書)の司会による質疑応答がかわされた。

なお、当日の講演の全記録は、後日「北海道地区協議会通信」第7号にまとめられ、参加者全員に配布した。

### 〈東北地区〉

去る1月26日、「NCR改訂に伴う目録の扱い方について」を研究主題として、第2回の東北地区私短図協研修会を新装成った山形女子短大附属図書館(理事館)において開催されたが、先般10月に幹事館、仙台白百合短大附属図書館(館長宮城 清先生)との協議によって、第3回研修会を福島地区において開催が決定した。

福島地区の桜の聖母短大図書館(館長平田 進先生)の御好意により、同館を会場として来る12月20日(土)に開催が決定した。

研修の内容としては新しい観点からの大学図書館における「レファレンスの問題、本問題を中心とした各館の当面の問題点、それに、昭和55年度私立短期大学図書館担当者研修会(成田大会)の整理部会に助言者として

参加された本地区の前理事宮城 清先生の御報告、会場館の見学が行われることになった。

なお、地区の議題としては、近畿地区・関東甲信越地区での雑誌総合目録作成の機運・動向を踏まえて、「私短図協」全般の発展にプラスするなら、東北地区においても、どのような面から取りあげて行くべきか、について、福島桜の聖母短大図書館における研修会の席上真剣に討議されることになった。また、「私短図協」の研究紀要「短期大学図書館研究」第2号への協力については各加盟館にすでに依頼状を送って、積極的に執筆を勧奨しており、地区として、研究発表の機運醸成につとめている。

昭和55年度における東北地区加盟館の動向としては、前理事宮城 清先生の仙台白百合短大附属図書館が、新図書館を完成、犀利な宮城先生の図書館建築への御見解を見事に具現した新図書館が誕生した(55年4月)。

その他、山形女子短大附属図書館では来年4月1日より、図書館業務にコンピューターを導入することになり、目下、鋭意準備中である。

### 〈東海・北陸地区〉

○昭和55年度第2回幹事会(文書による)

日時:7月5日(土)

審議・決議事項

1. 役員人事(昭和55、56年度)

(1)会長校 愛知淑徳短大

・(2)幹事役

北陸地区:北陸学院短大 三岐地区:大垣女子短大  
愛知地区:安城学園女子短大 名古屋地区:東海学園女子短大 会長推薦:暁学園短大

(3)企画委員

担当幹事:北陸学院短大、大垣女子短大、東海学園女子短大

委員校:聖徳学園女子短大、市邨学園短大、名古屋短大

会長校:愛知淑徳短大(夏目)

(4)会報委員

担当幹事:安城学園女子短大、暁学園短大

委員校:金沢女子短大

会長校:愛知淑徳短大(武藤)

2. 総大会の日程

第1回幹事会で10月上旬に決定していたが、9月28日~10月2日日本私立短大協会の図書館担当者研修会が開催されるので11月下旬に変更。

## 3. 総合雑誌目録について

時期尚早で再検討とする。

## ○昭和55年度第1回役員会

日時：9月5日(金) 13:00~16:00

場所：愛知淑徳短期大学

出席：7校 欠席：3校

## 協議決定事項

## 1. 総大会の日時・行事

日時：11月26日 10:20~16:00

行事：総会 講演会、研究会

## 2. 大会時の研究会の進行係と発表校

進行係：東海学園女子短大

テーマ：図書館相互利用

発表校：北陸学院短大、市邨学園短大、大垣女子短大

## 3. 研修会

総大会にて検討する。

## 4. 会報について

表紙スタイルの変更。

次号は総大会資料号とする。

## 5. 総合雑誌目録について

総大会にて検討する。

## ○加盟校等連絡(9月22日)

1. 私立短大図書館協議会加盟案内を地区非加盟校15へ発送

2. 地区協議会の運営についてのアンケート調査を全国7地区のうち、6地区へ依頼。(4地区より回答があった)。

3. 地区会員校へ本部よりの「短大図書館研究第2号刊行について」(執筆調査)の写しと「相互利用」の現状に関する原稿依頼(10月20日〆切)を発送。

○地区協議会加盟館 昭和55年10月1日現在 21館

○昭和55年総大会(予定)

日時：昭和55年11月26日(水)10:20~16:10

場所：愛知淑徳短期大学

対象：地区内私立短大図書館及隣接短大

参加費：1人1,000円 資料代(昼食代を含む)

日程

総会

講演会 講師 勅使逸雄氏

演題 「図書館についてのあれこれの模索」

研究会

1. 「相互利用」について

2. 雑誌目録について

3. その他(自由討議)

## &lt;近畿地区&gt;

## &lt;近畿地区私立短期大学雑誌目録刊行&gt;

近畿地区協議会の力の結晶とも言ふべき雑誌目録が完成した。すでに、本目録による複写依頼が数件あり、着実に動き出していると思われる。近畿地区のみならず、全国の短大各館からも大いに利用されることを期待してやまない。

丸善扱い分にはさみこんだ利用者カードが、除々に事務局に回収されているが、追補版を希望する声が多く見られる。近畿地区の継続事業として、来年夏頃に追補版を出す予定なので、参加館には、自館所蔵分についての訂正や、購読中止等による変更、新規購読による追加等を随時リストアップして準備されるよう、呼びかけている。また、追補版には、今回参加されなかった館の所蔵データも加えたいと考えている。

会計的見通しについて：印刷代86万、及び、PRちらし3万、計89万のうち、10月末に38万円支払った。その内訳は、協議会所持金8万円、今年度交付金9万、寄付5万、事務局扱い分の売り上げ13万である。支払いの残額51万については、12月中旬に事務局に入金される丸善扱い分の売り上げをあてる予定。丸善扱い分で220冊売れば支払いを済ませることが出来るが、11月10日現在で約160冊出ているとのこと、もう一息というところで気をもんでいる。なお、在京役員会・本部事務局・各地区理事校には何かとお力添えいただいた。厚くお礼申し上げたい。

## &lt;研修懇談会及び幹事会開催予定&gt;

11月29日(土)に、本年3月に竣工されたばかりの大阪成蹊女子短期大学図書館の見学を予定している。

また、同案内状送付の際に、協議会運営及び次期役員校選出について、各館の意見を求めた。その回答を基にして、同日幹事会を開き来年度への準備にとりかかる予定。

## &lt;中国・四国地区&gt;

1. 私立短期大学図書館協議会中国・四国地区図書館協議会加盟館図書館員名簿(附私立短期大学中国・四国地区図書館協議会規程)の刊行を地区協議会長館(四国女子大学短期大学部図書館)で計画、新規加盟館を入れた17館よりの資料提出を待って(55.9.9文書を以って依頼)刊行予定。

2. 昭和55年度四国女子大学図書館受入雑誌目録を刊行加盟館および関係機関に配布(55.10.22)

3. 「関東・甲信越地区私立短大図書館雑誌紀要総目録1980年」の購入協力方について加盟店に依頼(55.10.22)

4. 短期大学図書館に関する文献目録について各加盟館に協力方依頼(55.11.6)

〈九州地区〉

昭和55年度全国図書館大会(日本図書館協会、鹿児島県主催)が10月30日から11月1日まで、鹿児島市で開催され、私立短期大学関係者は全国から80数名が出席した。第2日目の分科会では国立私立短大図書館関係者100余名が一堂に会し、九州地区の公立短大から1名、私立短大から次の3名の方々が充実した事例および研究発表をされ盛会であった。

「スライド利用によるオリエンテーション」

田中輝男(鹿児島短期大学図書館)

「短大図書館の諸問題」

定良誓信(佐賀龍谷短期大学図書館)

「蔵書構成と職員の専門職制」

下篠瑞恵(福岡女子短期大学図書館)

以上

## 私立短期大学図書館協議会出版物案内

○私立短期大学図書館総覧

1979.3.31発行

B5判 700頁

頒布価格 3,500円(送料共)

販売取扱:株式会社 新日本印刷

〒105 東京都港区虎ノ門1-25-12

電話 03-503-0428

○私立短期大学図書館総覧—集計・分析—

1980.10.31発行

B5判 66頁

頒布価格 2,500円(送料共)

販売取扱:株式会社 新日本印刷

〒105 東京都港区虎ノ門1-25-12

電話 03-503-0428

○短期大学図書館研究 年1回

創刊号 80.3.31発行

B5判 90頁

頒布価格 1,700円(送料共)

販売取扱:株式会社 新日本印刷

〒105 東京都港区虎ノ門1-25-12

電話 03-503-0428

○会報 年2回

編集発行 〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1

東京女子大学短期大学部図書館内

私立短期大学図書館協議会

電話 0422-45-4145

○関東・甲信越地区私立短期大学図書館雑誌紀要総目録 1980 兼目恵子編

55.7.31発行 B5 253頁 頒布価格 3,300円

発売:〒328 栃木市錦町5-26 ふろんていあ 電話0282~24~6081

○近畿地区短期大学雑誌目録—1980.3月末日現在 55.9.1発行

B5 194頁 頒布価格 3,000円

発売:丸善大阪支店または申込はお近くの丸善へ

短期大学図書館名	〒	住 所	連絡責任職・氏 名
＜北海道＞			
天使女子短大	065	札幌市東区北13条東3-31	司 書 多賀 照子
＜関東・甲信越＞			
前橋育英学園短大	371	前橋市朝日が丘町13	司 書 入 澤 はつ子
千葉短大	272	市川市国府台1-3-1	図 書 課 長 遠 藤 嶺 郎
聖隷学園浜松衛生短大	433	浜松市三方原町3453	司 書 主 任 窪 田 三重子
常葉学園短大	420	静岡市瀬名1480	司 書 熊ヶ谷 秀子
日本経済短大	180	武蔵野市境5-24-10	事 務 課 長 高 尾 清
鶴川女子短大	194-01	町田市三輪町1135	司 書 永 井 明 美
淑徳短大	174	板橋区前野町5-3-7	課 長 補 佐 西 條 恵子
山脇学園短大	107	港区赤坂4-10-36	図 書 館 職 員 塚 本 真 弓
＜東海・北陸＞			
柳城女子短大	466	名古屋市昭和区明月町2-54	司 書 広 瀬 文 子
星稜女子短大	920	金沢市御所町西1	主 事 出 村 朝 子
＜近畿＞			
嵯峨美術短大	616	京都市右京区嵯峨五島町1	係 長 本 間 縫 子
京都文教短大	611	京都府宇治市槇島町千足80	司 書 佐々木 乾 三
池坊短大	600	京都市下京区四条室町下ル	課 長 松 浦 国 雄
奈良芸術短大	634	橿原市久米町222	荒木田 とよ
＜中・四国＞			
美作女子短大	708	岡山県津山市上河原32	司 書 山 本 久美子
順正短大	716	高梁市伊賀町8	図 書 館 事 務 守 屋 厚 子
上戸学園女子短大	767	香川県三豊郡高瀬町下勝間	司 書 篠 原 美 鈴
＜九州＞			
九州女学院短大	860	熊本市黒髪3-12-16	司 書 井 上 光 行

\*\*\*\*\*

### ～原稿をお寄せください～

会報創刊以来連載として「短大図書館めぐり」「会員校の声」を毎号記載しておりますが、その他新館紹介、随筆、自由投稿の声の欄や資料重複交換コーナーなど、また資料紹介、小さなニュースどんなことでも結構です。会報は原則として年2回、7月と12月刊行ですので、切は別に定めませんので、思いつくまま、随時送付していただければありがたいと存じます。会報は会員校の情報誌として有効に利用されますよう、御協力、御支援をお願いします。

\*\*\*\*\*

編集後記：会報7号をお届けいたします。在京役員会でかねてから役員補充を検討しておりましたが、幸い日本経済短期大学図書館事務課長高尾清氏より承諾を得て、一層の協力をお願いすることになりました。今後ともよろしく。さて当協議会も昭和52年以来急速な発展が目指ましく会報、総覧、その集計と分析、さらに短大図書館研究創刊、地区では所蔵の雑誌目録の編集発行や各種研修会の開催など活動が図書館界より注目されるようになってきました。これらを機に短大図書館の認識をさらに高め、4年制大学との相互な協力も今後おすすめて行かなければならないと思います。さらに会報、研究誌など通じて情報、知識を深めて行くことも大切ではないでしょうか。(S)

発行所 私立短期大学図書館協議会 〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1  
東京女子大学短期大学部図書館内 Tel: 0422-45-4145